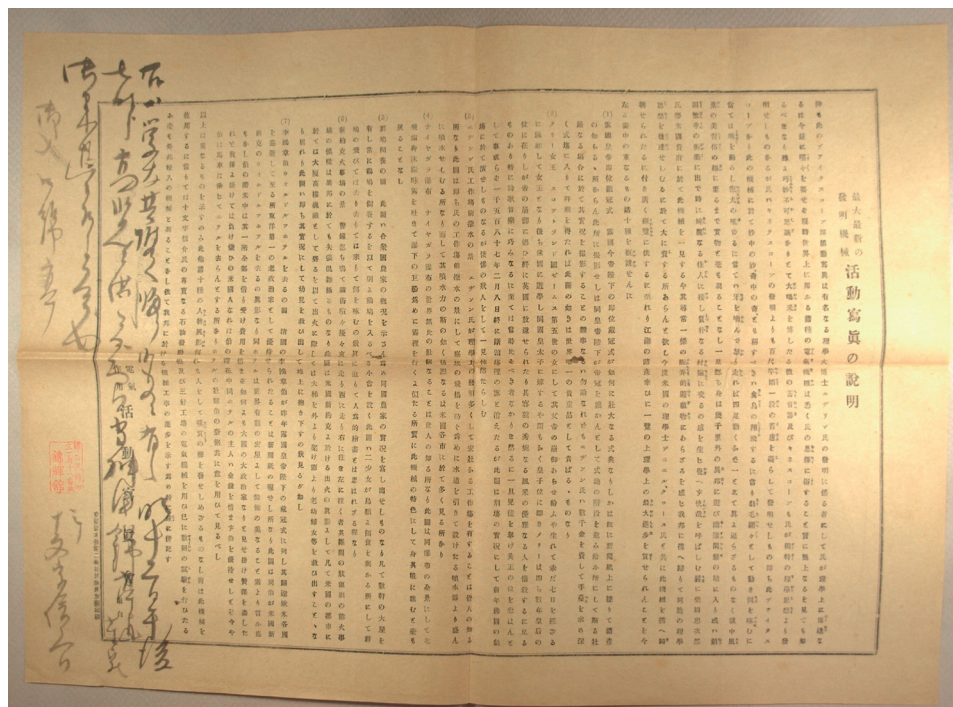


活動写真



* 梶山家文書1789「最大最新の発明機械 活動写真の説明」

解説

1893（明治26）年、エジソンは動く映像を覗き見る機械（キネトスコープ）を発明しました。これにヒントを得たフランスのリュミエール兄弟は、投影機を用いてスクリーンに大きく映し出す機械（シネマトグラフ）を発明しました。エジソンも自身の発明したキネトスコープを改良し、投影機を用いて動画を映す「バイタスコープ」を発明しています。

これらの発明品は、間を置かずに複数のルートを通じ、日本へ紹介されました。貿易商柴田忠次郎は、アメリカからバイタスコープを持ち帰りましたが、これを用いた上映会を1897（明治30）年3月6日から東京神田のホール（錦輝館）で開いています。写真はその説明用のチラシです。発行者は「電気作用活動写真会」で、新しい発明品に対する興奮が次のように綴られています。

此の機械において妙中の妙、奇中の奇、とも称すべきは、禽鳥の翔飛するに当たり羽毛翩々として動き、餌を啄ばむに当たっては嘴を動かし、獣犬の吼ゆるに当たっては牙を噛んで怒り、走れば四足動くなどとして真に逼らざるものはなく、就中風景の美、習俗の細に至るまで実物と毫も異なることなし

また、以下の7番組のタイトルと簡単な内容を紹介しています。

- (1)露国皇帝即位戴冠式、(2)メリー女王、(3)エヂソン氏工場前撥水の景、
- (4)ナイイガラ瀑布、(5)群鳩飼養の図、(6)ニューヨーク火事禍の景、
- (7)李鴻章伯ウオールドルフホテルを去るの図

上映に必要な電気については、政治家で実業家の十文字信介の協力を得て、彼から発動機を借り受けました。それが縁で弟の十文字大元はこの後、東京で活動弁士として活躍しています。チラシの末尾には十文字信介が自筆で案内の文を書いています。